

岡山県感染症週報 2013 年 第 49 週 (12 月 2 日～ 12 月 8 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2013 年 第 49 週 (12/2～12/8) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第 48 週 2 類感染症 結核 2 名 (60 代 男 1 名、80 代 男 1 名)
5 類感染症 アメーバ赤痢 1 名 (40 代 男)
第 49 週 2 類感染症 結核 1 名 (80 代 男)
3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (O157 : 幼児 男)
5 類感染症 梅毒 1 名 (20 代 男)

■定点把握感染症発生状況

- 感染性胃腸炎は、県全体で 779 名 (定点あたり 11.98 → 14.43 人) の報告があり、前週より大きく増加しました。
○RS ウイルス感染症は、県全体で 60 名 (定点あたり 1.19 → 1.11 人) の報告があり、前週より減少しました。
○インフルエンザは、県全体で 47 名 (定点あたり 0.49 → 0.56 人) の報告があり、前週より増加しました。

【第 50 週 速報】

- 腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (O157 : 幼児 男) の発生がありました (12 月 10 日)。

-
1. [腸管出血性大腸菌感染症](#)は、第 49 週に 1 名の発生報告がありました。岡山県のこれまでの報告累計は 83 名となり、第 39 週から 11 週連続の発生となっています。今年の 11 月の発生は 9 名となり、県の過去 5 年平均 (2.0 名) に比べて多く報告されました。県では、7 月 10 日に「腸管出血性大腸菌感染症注意報」を発令し、注意喚起を図っています。12 月に入り、寒い日が続いていますが、手洗い等の徹底や、食品の冷蔵保存を行い、食肉は中心部まで火を通すなど、ひきつづき感染予防に努めましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ「[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!](#)」をご覧ください。
 2. [感染性胃腸炎](#)は、県全体で 779 名 (定点あたり 11.98 → 14.43 人) の報告があり、前週より大きく増加しました。第 43 週以降連続で増加しています。県内の発生状況など詳しくは「[感染性胃腸炎情報](#)」をご覧ください。
 3. [RS ウイルス感染症](#)は、県全体で 60 名 (定点あたり 1.19 → 1.11 人) の報告があり、前週より減少しましたが、第 46 週以降は過去 10 年の同時期で最も報告数が多くなっています。地域別では、美作地域 (2.33 人)、岡山市 (1.50 人)、倉敷市 (1.18 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。第 49 週までの年齢別累計では、6 ヶ月未満 20%、6-12 ヶ月 25%、1 歳 34%と、1 歳以下の乳児が 79% を占めています。この感染症は、秋から冬にかけて多くの患者が報告されており、今後再び患者数が増加する恐れがあります。ひきつづき手洗い、うがい、マスクの着用等、感染予防に努め、お子さんの体調が悪いときは、早めに医療機関を受診してください。全国の第 48 週の発生状況を見ると、定点あたり 1.35 人の報告があり、岡山県と同様に過去 10 年の同時期で最も多くなっています。地域別では、徳島県 (5.39 人)、香川県 (3.10 人)、三重県 (2.58 人) の順で定点あたり報告数が多くなっており、徳島県で特に大きな流行となっています。
 4. [インフルエンザ](#)は、県全体で 47 名 (定点あたり 0.49 → 0.56 人) の報告があり、前週より増加しました。倉敷市 (2.06 人) と備北地域 (1.67 人) で、インフルエンザ流行開始の目安となる「定点あたり 1.00 人」を超え、地域的な流行が見られています。県全体としても、第 45 週以降増加が続いていますので、手洗い・うがいなど、自分のできる感染予防に努めましょう。県内の発生状況など詳しくは、「[インフルエンザ情報](#)」をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★★	RSウイルス感染症		★★★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★
感染性胃腸炎		★★★★★	水痘		★★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		★★★
マイコプラズマ肺炎			クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		—			

【記号の説明】 前週からの推移:



: 2 倍以上の減少



: 1.1～2 倍未満の減少

 : 1.1 未満の増減



: 1.1～2 倍未満の増加



: 2 倍以上の増加

発生状況: 空白: 発生なし ★: 僅か ★★: 少し ★★★: やや多い ★★★★: 多い ★★★★★: 非常に多い
 ※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、平成 25 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。

正しい手洗い

～感染予防と拡大防止のポイント～

感染症や食中毒の予防の基本は、手洗いです。皆さんは正しい手洗いができていますか？

石けんをよく泡立て、正しい手順にしたがって、丁寧に**こすり洗い**をしましょう。しっかり手を洗うためには、30～40秒程度の時間が必要とされています。大体の時間を、歌で確認するとよくわかります。

例えば、「もしもし、カメよ」を2回、「ハッピーバースデー」を2回など、自分の好きな歌を探してみましょう。

〈手洗いの前に〉

- ・爪は短く切っていますか？1週間に1回程度、爪を切っておきましょう。
- ・ひじの上まで袖をまくり、時計や指輪などのアクセサリーは外しましょう。

〈手順〉

①水で**手をぬらして**から、石けんをつけて、**よく泡立てる**。

②手の**ひら**と手の**甲**を洗う。

③指と指の間を洗う。指の**側面**、**付け根**も丁寧に。

④**親指**を洗う。

⑤**指先**、**爪の周り**を洗う。

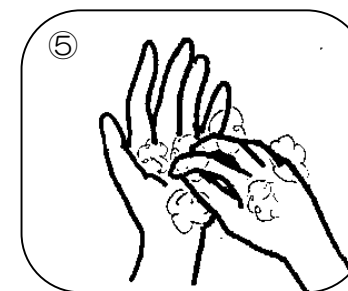
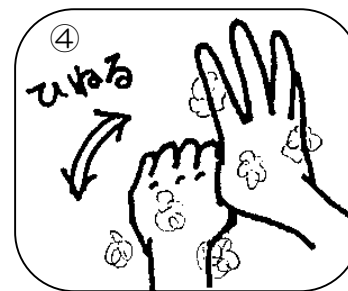
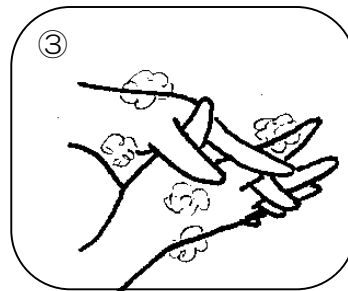
⑥**手首**を洗う。

⑦**蛇口**を洗う

⑧流水でしっかりと泡を洗い流す。

⑨ペーパータオルで拭く
(タオルなどを共用にするのは×)。

⑩アルコール消毒剤を手にしり込むとさらに効果的です。



②～⑥までで
30～40秒だよ。
各部分を
5回以上
洗ってね！

ごしごしと。



◎必ず手を洗うとき

- ・トイレから出た後
- ・調理の前
- ・食事の前

さらに、「外出先から帰ったとき」など、手洗い、うがいをして感染予防に努めましょう。

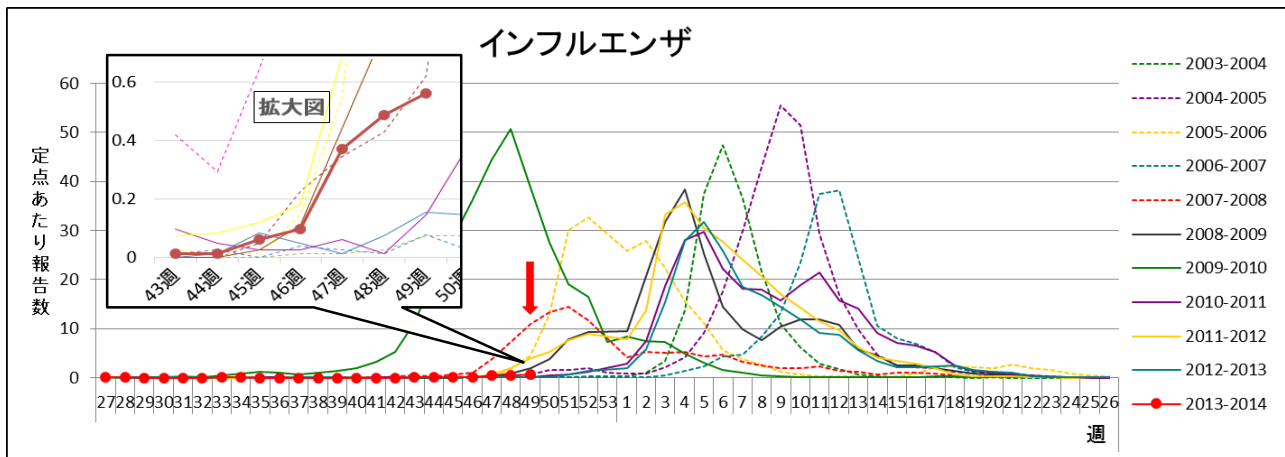
手洗いとともに

便や吐物を処理するときは、使い捨ての上着やゴム手袋、マスクなどを着けましょう。塩素系消毒剤などを使って消毒も行い、処理が終わったら、しっかりと手洗い、うがいをしましょう。ノロウイルスに対しては、アルコールは消毒効果が低いとされています。

インフルエンザ情報 2013 年 第 49 週 (12 月 2 日 ~ 12 月 8 日)

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 47 名（定点あたり 0.49 → 0.56 人）の発生がありました（84 定点医療機関報告）。
- インフルエンザとみられる臨時休業が井原市と倉敷市の小学校各 1 校でありました。
- インフルエンザによる入院患者は 1 名の報告があり、県内では今シーズン初の報告となりました。

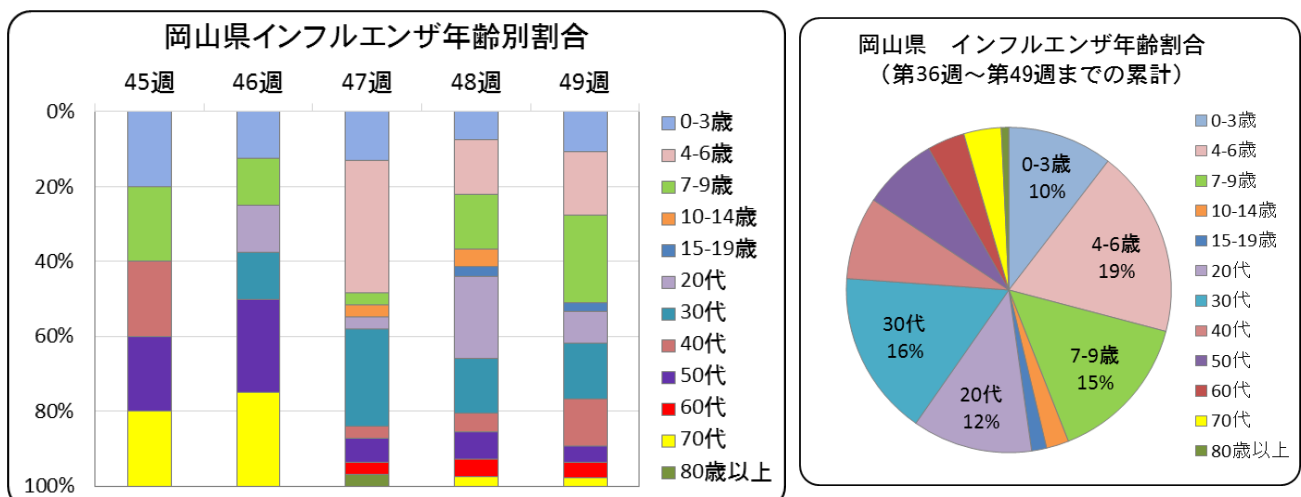


インフルエンザは、県全体で 47 名（定点あたり 0.49 → 0.56 人）の発生があり、第 45 週から増加が続いています。県全体としての報告数はインフルエンザ流行開始の目安となる「定点あたり 1.0 人」を超えていないものの、備北地域（1.67 人）及び報告数が大きく増加した倉敷市（0.63 → 2.06 人）では、地域的な流行が見られています。

12 月に入りインフルエンザは流行のシーズンを迎えています。県内では今シーズン初となるインフルエンザによる入院患者が 1 名報告され、井原市や倉敷市の小学校では臨時休業も報告されていますので、手洗い・うがいを励行し、感染予防を心がけましょう。

1. 年齢別発生状況

2013 年第 36～49 週までの年齢別累計割合は、4～6 歳 19%、30 代 16%、7～9 歳 15% の順で多くなっています。

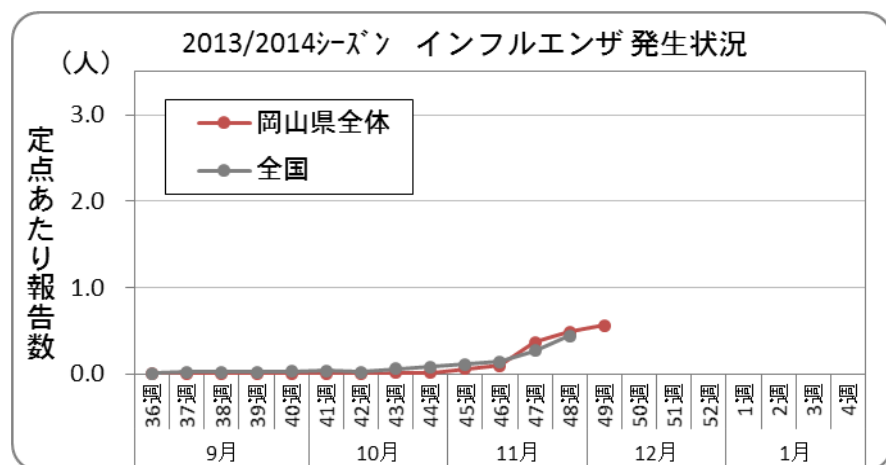


2. 地域別発生状況

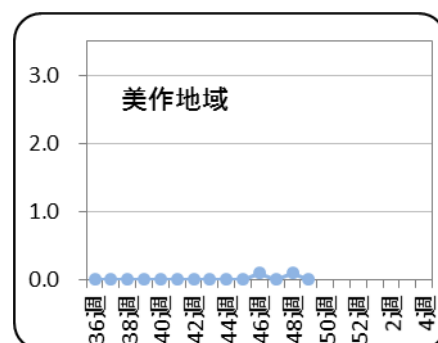
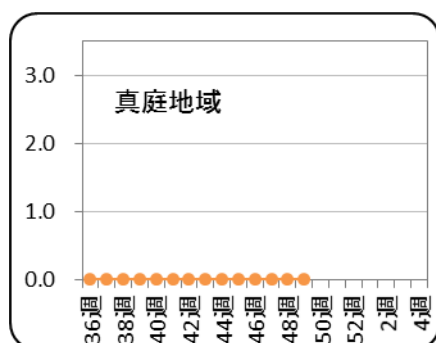
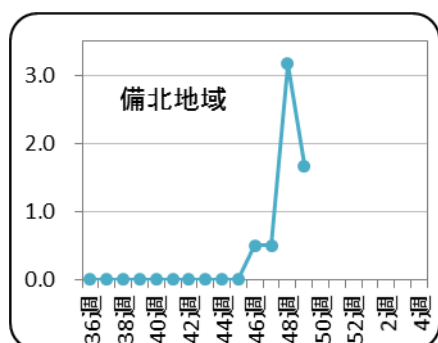
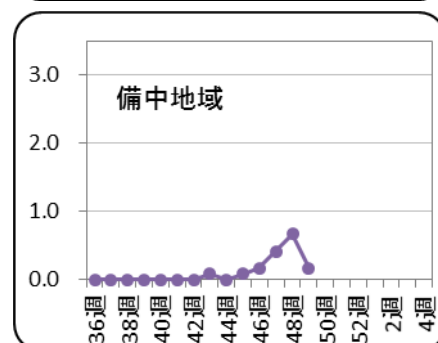
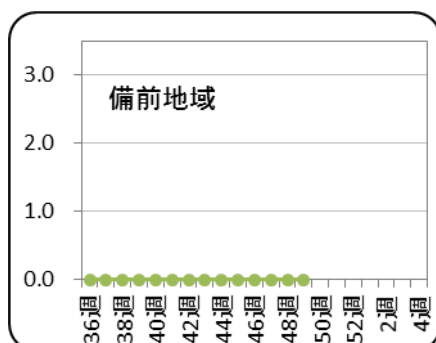
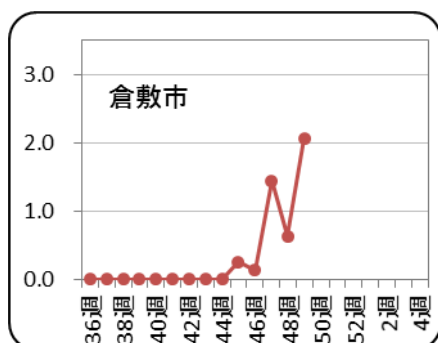
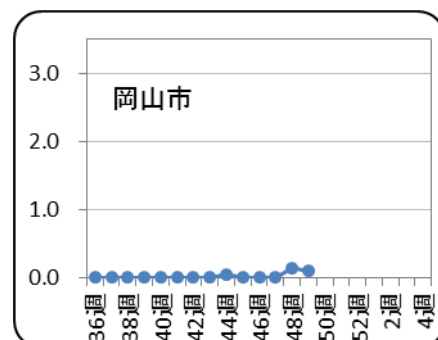
前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	47	↑	備 中	患者数	2	↓
	定点あたり	0.56			定点あたり	0.17	
岡山市	患者数	2	↓	備 北	患者数	10	↓
	定点あたり	0.09			定点あたり	1.67	
倉敷市	患者数	33	↑	真 庭	患者数	—	→
	定点あたり	2.06			定点あたり	—	
備 前	患者数	—	→	美 作	患者数	0	↓
	定点あたり	—			定点あたり	0	

【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 ↓ 1.1～2倍未満の減少 ↘ 1.1未満の増減 →
1.1～2倍未満の増加 ↗ 2倍以上の増加 ↑



全国集計第48週(11/25～12/1)速報値によると、全国では定点あたり0.44人であり、第43週以降増加が続いています。地域別では、佐賀県(2.08人)、鹿児島県(1.42人)、岩手県(1.36人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、41都道府県で前週よりも増加しました。



3. インフルエンザウイルス検出状況

第49週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスはありませんでした。今シーズンでこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が7株です。

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が67株、AH1pdm09型が34株、B型が31株で、昨シーズンの同時期同様AH3型が最も多く検出されています。（平成25年12月12日現在）

[（インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立感染症研究所））](#)

4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザとみられる臨時休業が井原市の小学校1校、倉敷市の小学校1校でありました。

1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	34	79	23	46	2	5	—	—	1	2	1	3	H25. 11. 13
岡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
倉敷市	14	58	14	36	1	3	0	0	0	0	1	3	H25. 11. 18
備前地域	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
備中地域	20	21	9	10	1	2	0	0	1	2	0	0	H25. 11. 13
備北地域	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
真庭地域	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
美作地域	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2) 臨時休業施設数の内訳

第49週：2施設

累計：5施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	0	1	2	4	—	—	—	—	—	—

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点5医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、1～4歳1名の報告があり、県内では今シーズン初の報告となりました。幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。

<インフルエンザの予防接種はお早めに！>

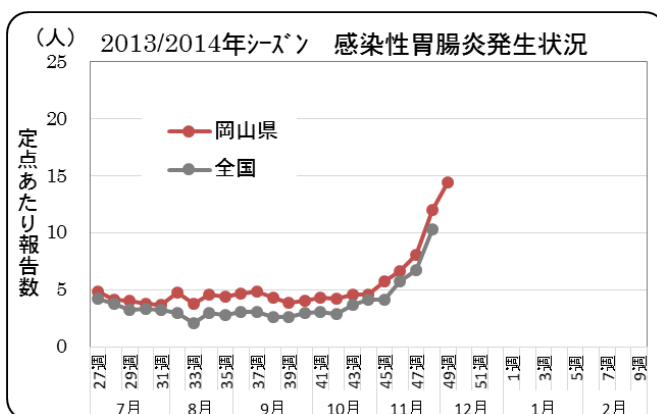
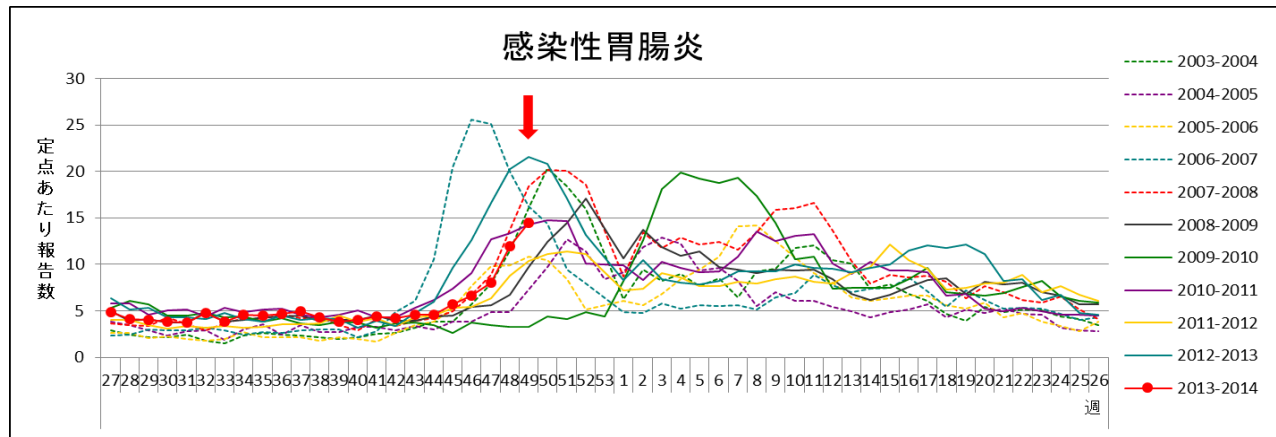
インフルエンザの予防接種を行っても、抗体ができるまでには2週間程度かかるされています。本格的な流行が始まる前に、早めのワクチン接種をご検討ください。

定期予防接種の対象者は積極的に予防接種を受けましょう。定期予防接種の対象者以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。

ワクチンの在庫及び、予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

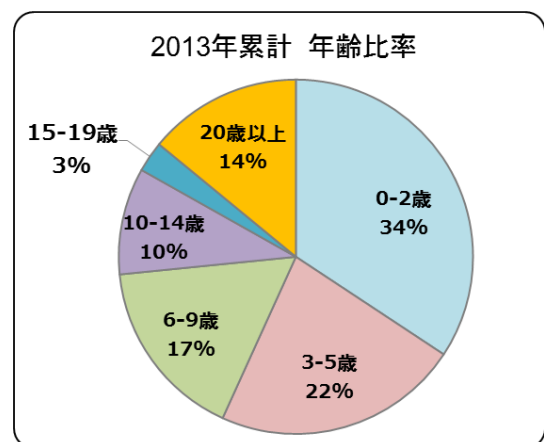
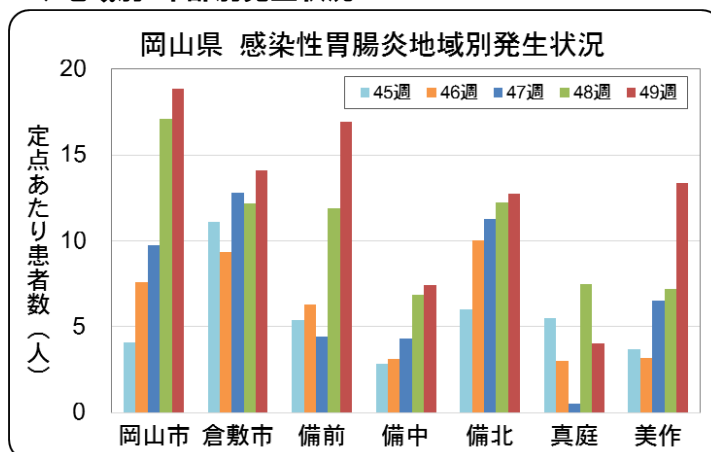
感染性胃腸炎情報 2013 年 第 49 週 (12 月 2 日 ~ 12 月 8 日)

○感染性胃腸炎は、県全体で 779 名（定点あたり 11.98 → 14.43 人）の発生がありました（54 定点医療機関報告）。



感染性胃腸炎は、県全体で 779 名（定点あたり 11.98 → 14.43 人）の発生があり、前週より増加しました。第 43 週以降報告数の増加が続いており、11 月下旬からは増加が大きくなっています。冬の感染性胃腸炎の原因はウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。学校や福祉施設、病院などでは、手洗いの徹底や下痢便・吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。

◆地域別・年齢別発生状況



地域別では、岡山市（18.86 人）、備前地域（16.90 人）、倉敷市（14.09 人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、備前地域（11.90 → 16.90 人）、美作地域（7.17 → 13.33 人）で大きく増加しました。備前地域では 2 週連続の大きな増加となっています。

年齢別累計では、0～2 歳の乳幼児が全体の 34% を占めています。

◎感染性胃腸炎が増加しています。

石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。患者の嘔吐物や下痢便を処理する際には、自分が感染しないように、使い捨ての上着やマスク、手袋を着用しましょう。また、塩素系漂白剤などを使った消毒も併せて行いましょう。

通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

保健所別報告患者数 2013年 49週 (2013/12/02～2013/12/08)

2013年12月11日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	47	0.56	2	0.09	33	2.06	—	—	2	0.17	10	1.67	—	—	—	—
RSウイルス感染症	60	1.11	21	1.50	13	1.18	1	0.10	7	1.00	4	1.00	—	—	14	2.33
咽頭結膜熱	19	0.35	6	0.43	3	0.27	1	0.10	4	0.57	—	—	—	—	5	0.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	44	0.81	26	1.86	5	0.45	1	0.10	1	0.14	—	—	1	0.50	10	1.67
感染性胃腸炎	779	14.43	264	18.86	155	14.09	169	16.90	52	7.43	51	12.75	8	4.00	80	13.33
水痘	70	1.30	22	1.57	22	2.00	12	1.20	8	1.14	1	0.25	4	2.00	1	0.17
手足口病	8	0.15	1	0.07	4	0.36	—	—	3	0.43	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	1	0.02	—	—	—	—	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	21	0.39	10	0.71	5	0.45	2	0.20	2	0.29	1	0.25	—	—	1	0.17
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	2	0.04	—	—	1	0.09	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	2	0.04	—	—	1	0.09	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	10	0.83	2	0.40	—	—	5	5.00	3	3.00	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	3	0.60	—	—	3	3.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2013年 49週 (2013/12/02～2013/12/08)

2013年12月11日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	47	0.56	2	0.09	33	2.06	—	—	2	0.17	10	1.67	—	—	—	—
咽頭結膜熱	19	0.35	6	0.43	3	0.27	1	0.10	4	0.57	—	—	—	—	5	0.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	44	0.81	26	1.86	5	0.45	1	0.10	1	0.14	—	—	1	0.50	10	1.67
感染性胃腸炎	779	14.43	264	18.86	155	14.09	169	16.90	52	7.43	51	12.75	8	4.00	80	13.33
水痘	70	1.30	22	1.57	22	2.00	12	1.20	8	1.14	1	0.25	4	2.00	1	0.17
手足口病	8	0.15	1	0.07	4	0.36	—	—	3	0.43	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	1	0.02	—	—	—	—	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	2	0.04	—	—	1	0.09	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	2	0.04	—	—	1	0.09	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	10	0.83	2	0.40	—	—	5	5.00	3	3.00	—	—	—	—	—	—

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2013年 第49週 2013/12/02～2013/12/08)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	47	-	-	1	4	-	4	1	3	-	3	8	-	1	4	7	6	2	2	1	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	60	7	20	20	9	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	19	-	1	7	4	1	1	3	-	-	-	1	-	-	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	44	-	-	2	1	6	7	7	3	4	3	3	6	-	2
感染性胃腸炎	779	6	44	133	84	53	69	54	48	42	26	23	63	21	113
水痘	70	1	5	12	17	9	13	3	2	2	1	1	4	-	-
手足口病	8	-	1	5	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
突発性発疹	21	-	13	7	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	2	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	10	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	1	-	1	4	-	-	1	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	3	-	-	-	-	1	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

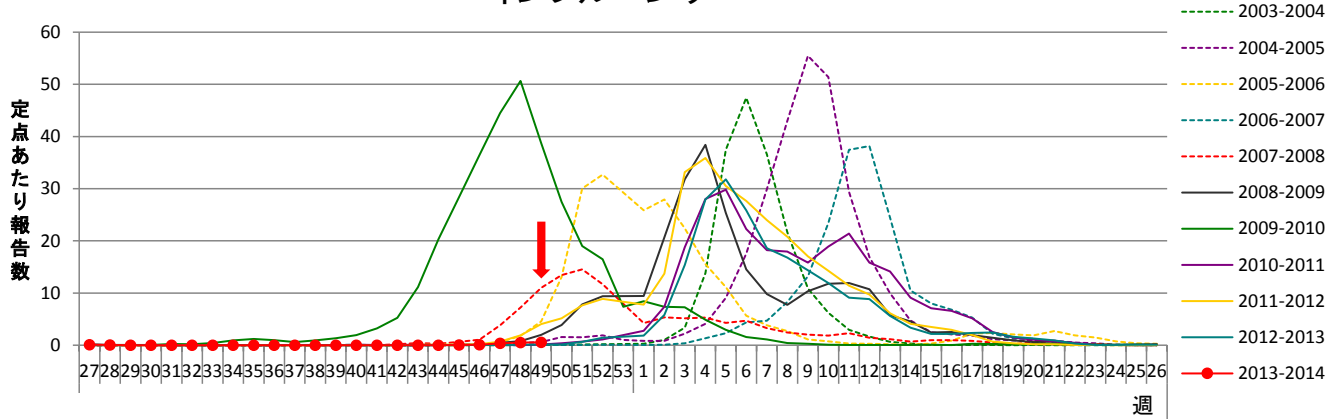
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

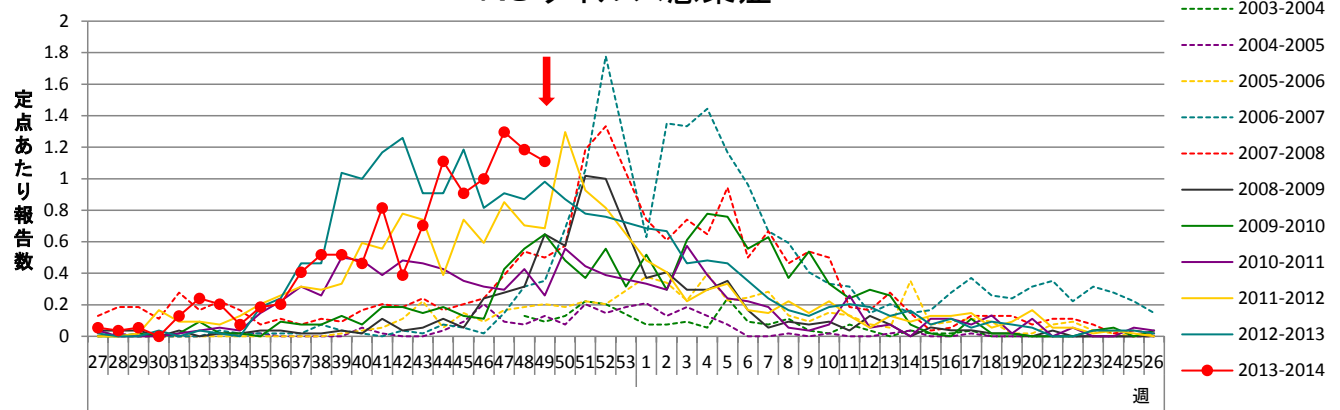
2013 年 49 週

分類	疾病名	2013			2012	2013	2012	2013	2012	2013	2012
		今週	累計	昨年		今週	累計	今週	累計	今週	累計
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱 ペスト	-	-	-	痘そう マールブルグ病	-	-
	南米出血熱	-	-	-		-	-	-		-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核 鳥インフルエンザ(H5N1)	1	325	477	ジフテリア	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-		-	-	-		-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢 パラチフス	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	1	83
	腸チフス	-	1	1		-	-	-		-	-
四類	E型肝炎	-	-	-	ウエストナイル熱 黄熱 回帰熱 狂犬病 重症熱性血小板減少症候群 ダニ媒介脳炎 つつが虫病 鳥インフルエンザ 日本紅斑熱 鼻疽 ヘンドラウイルス感染症 マラリア リッサウイルス感染症 レジオネラ症	-	-	-	A型肝炎 オウム病 キャサヌル森林病 コクシジオイデス症 腎症候性出血熱 炭疽 デング熱 ニパウイルス感染症 ハンタウイルス肺症候群 ブルセラ症 発しんチフス 野兎病 リフトバレー熱 レプトスピラ症	-	5
	エキノкокクス症	-	-	-		-	-	-		-	-
	オムスク出血熱	-	-	-		-	-	-		-	-
	Q熱	-	-	-		-	-	-		-	-
	サル痘	-	-	-		-	2	-		-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-		-	-	-		-	-
	チクングニア熱	-	-	-		-	-	2		-	1
	東部ウマ脳炎	-	-	-		-	-	-		-	-
	日本脳炎	-	1	-		-	1	-		-	-
	Bウイルス病	-	-	-		-	-	-		-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-		-	-	-		-	-
	ポツリヌス症	-	-	-		-	1	-		-	-
	ライム病	-	-	-		-	-	-		-	-
	類鼻疽	-	-	-		-	24	29		-	2
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-		-	-
五類	アメーバ赤痢	-	16	11	ウイルス性肝炎*3 クロイツフェルト・ヤコブ病 ジアルジア症 侵襲性肺炎球菌感染症 破傷風 風しん	-	11	7	急性脳炎*4 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 先天性風しん症候群 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染 麻しん	-	5
	クリプトスポリジウム症	-	-	-		-	4	1		-	2
	後天性免疫不全症候群	-	16	16		-	1	3		-	1
	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-		-	19	-		-	-
	梅毒	1	8	7		-	3	1		-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	1	2		-	75	6		-	1
											6

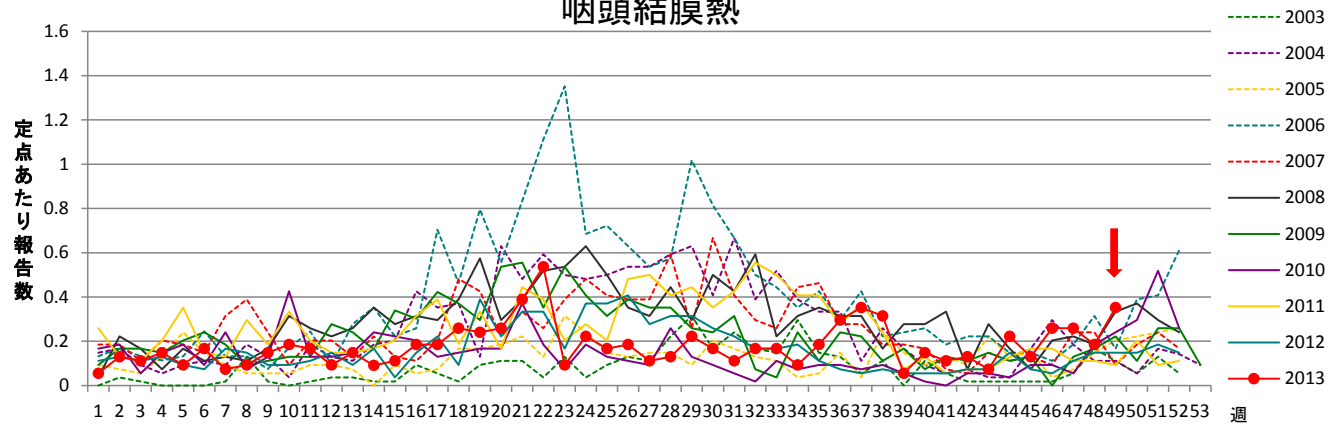
インフルエンザ



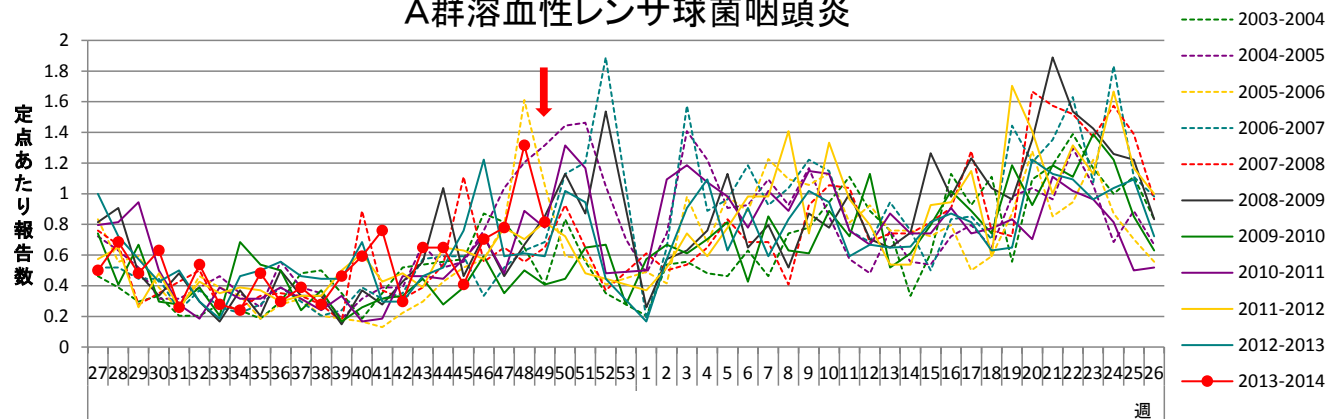
RSウイルス感染症



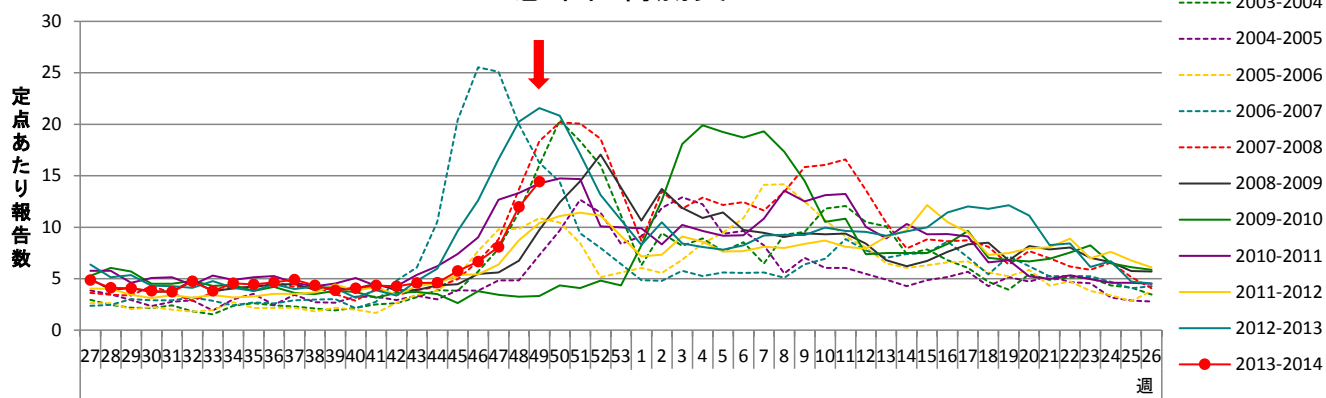
咽頭結膜熱



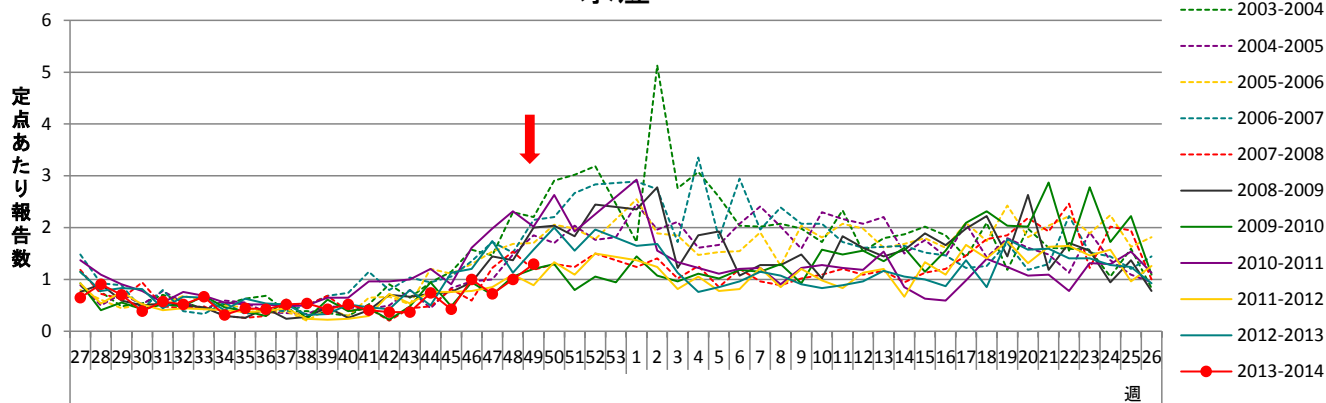
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



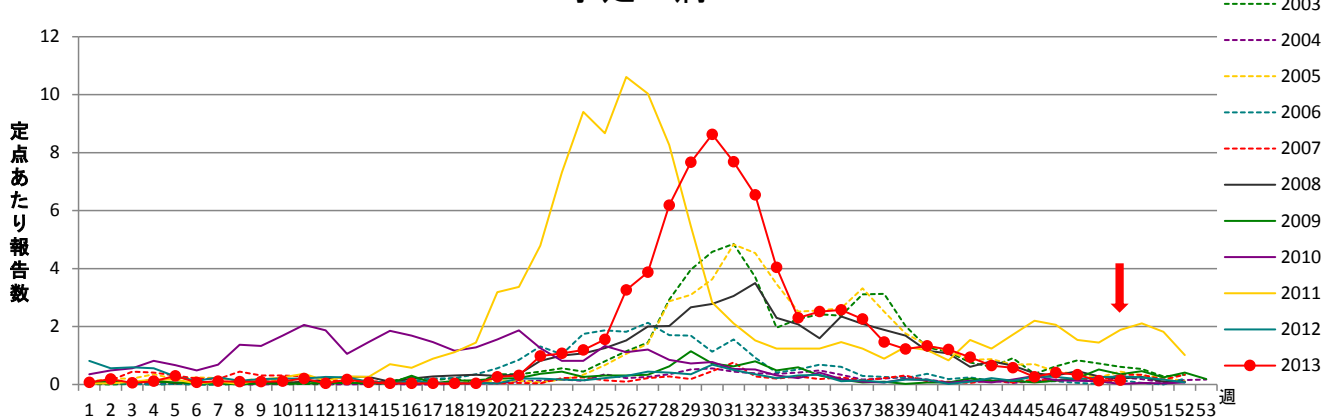
感染性胃腸炎



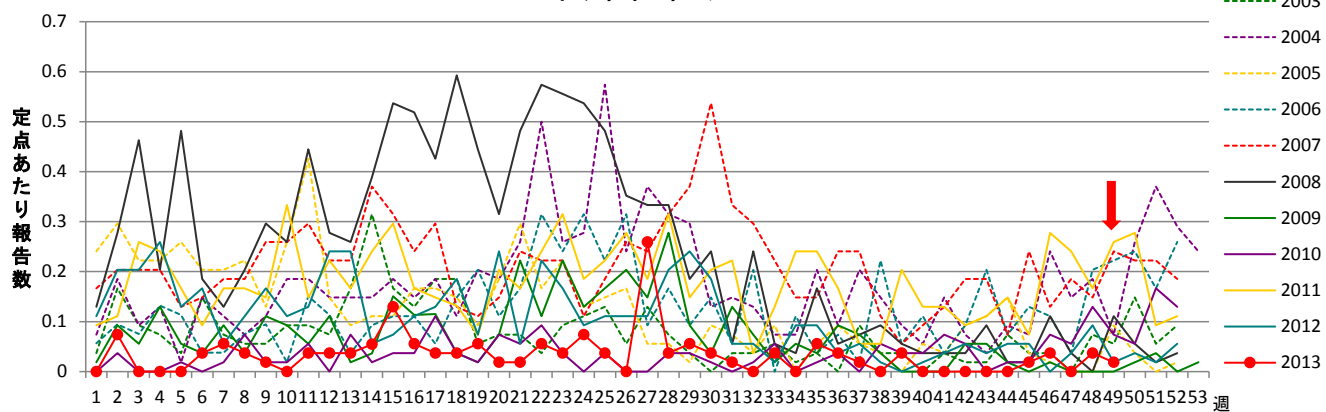
水痘



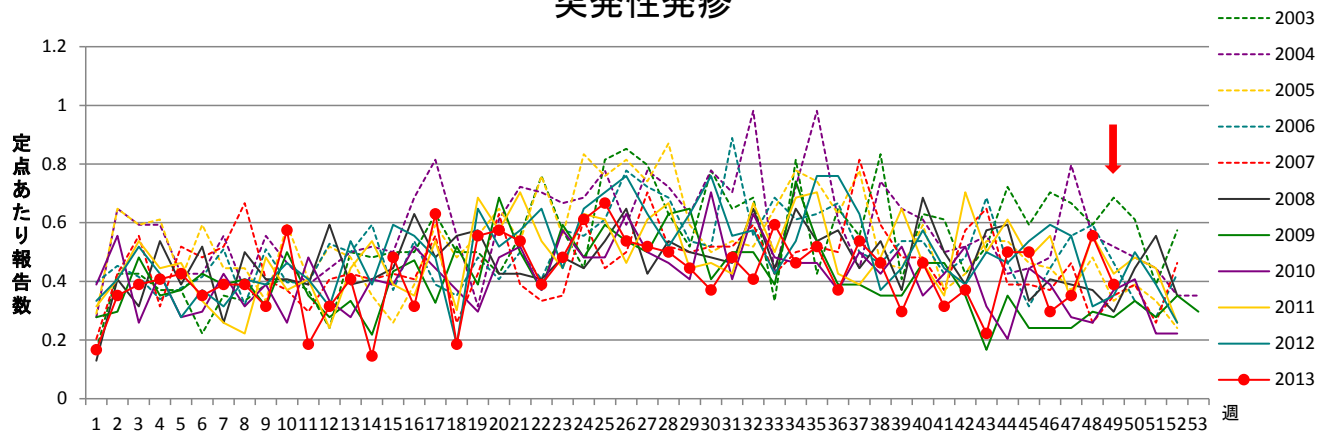
手足口病



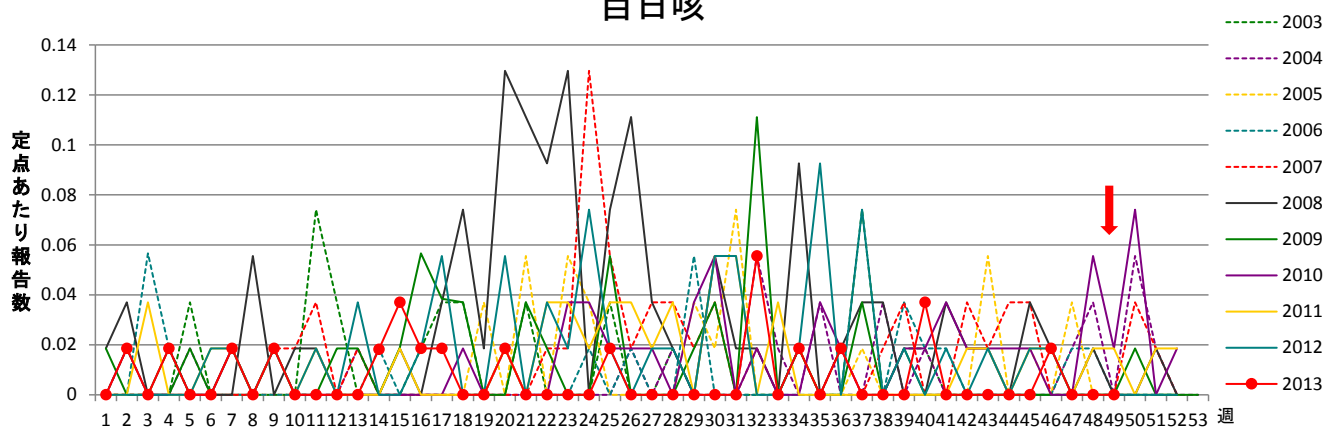
伝染性紅斑



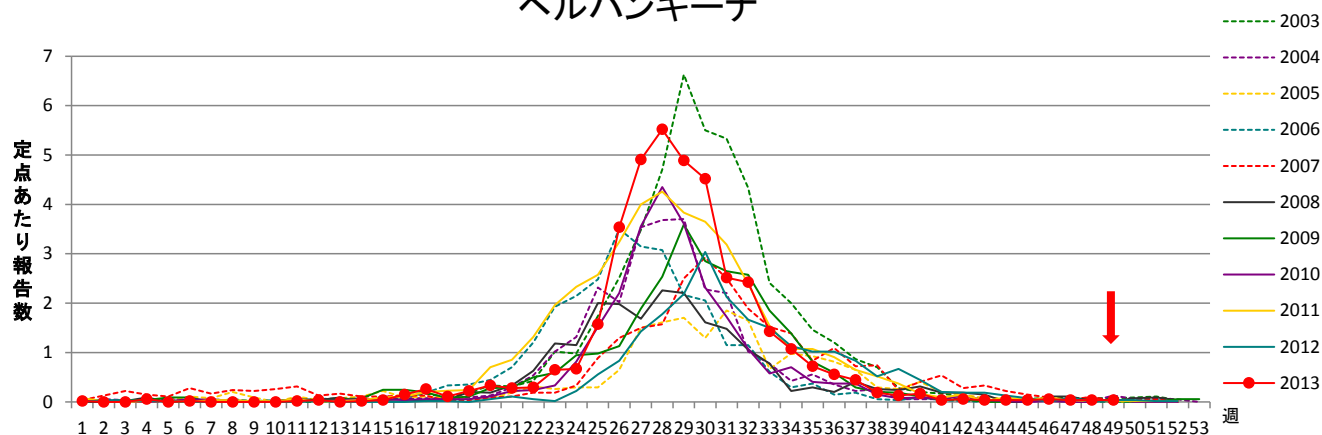
突発性発疹



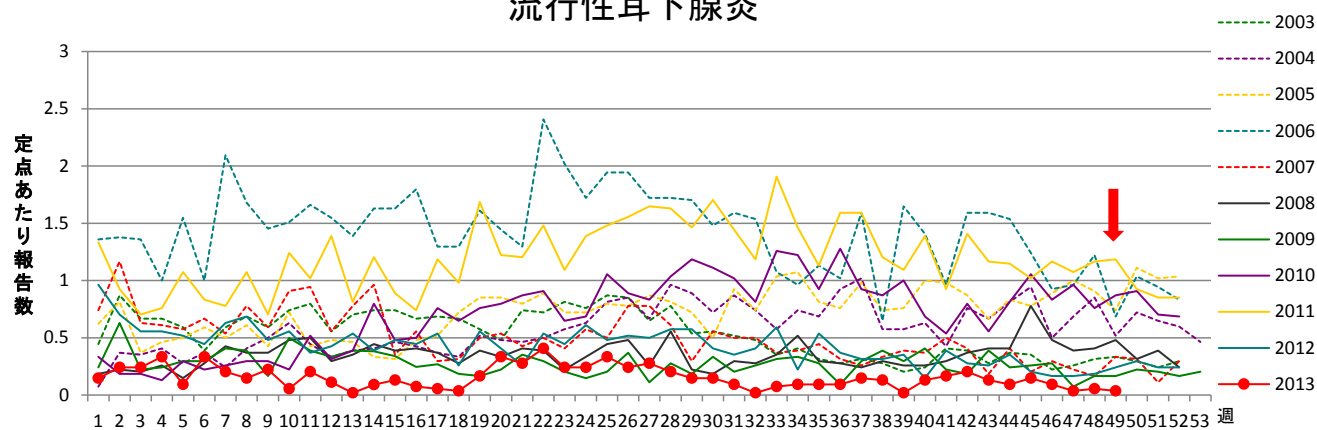
百日咳



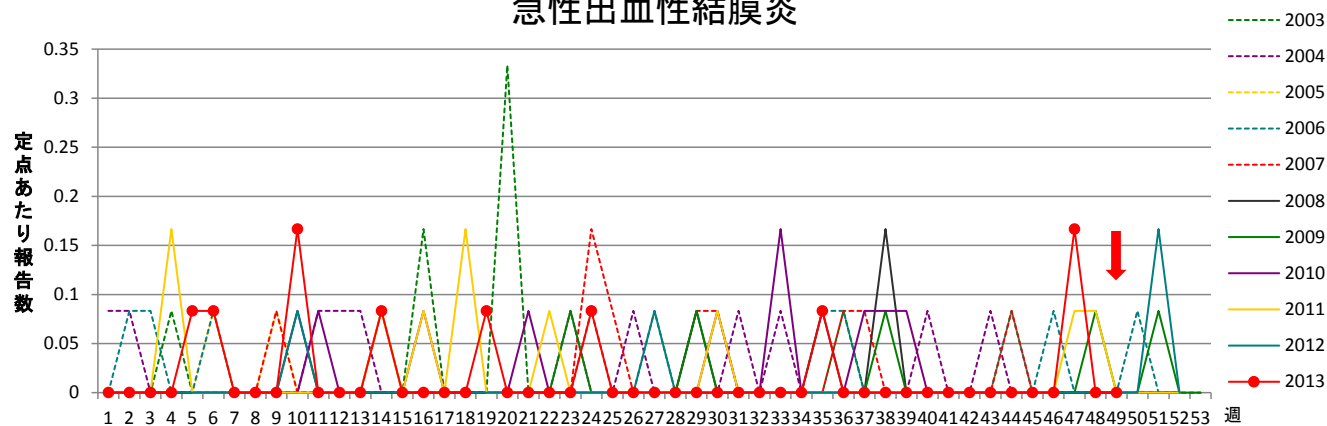
ヘルパンギーナ



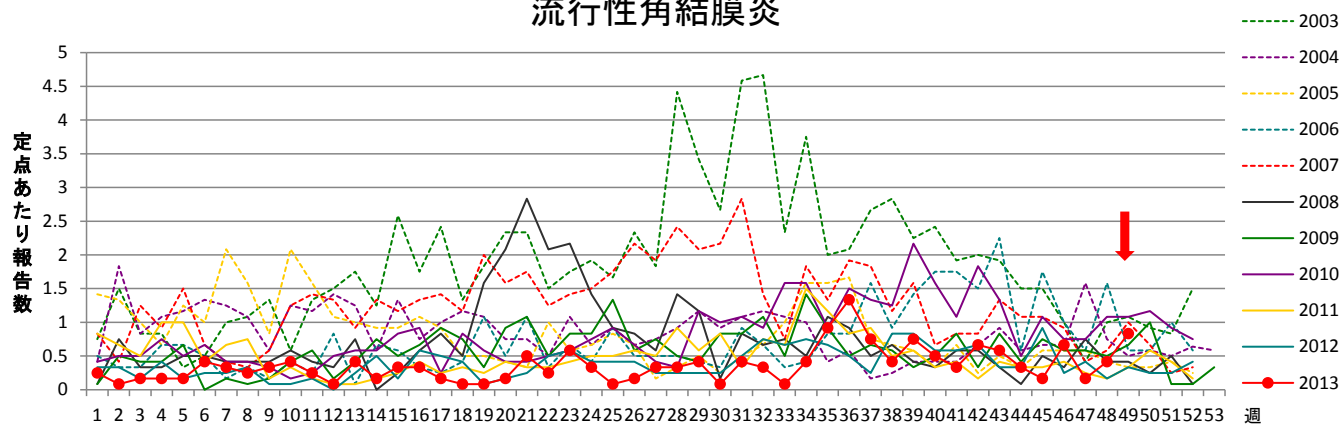
流行性耳下腺炎



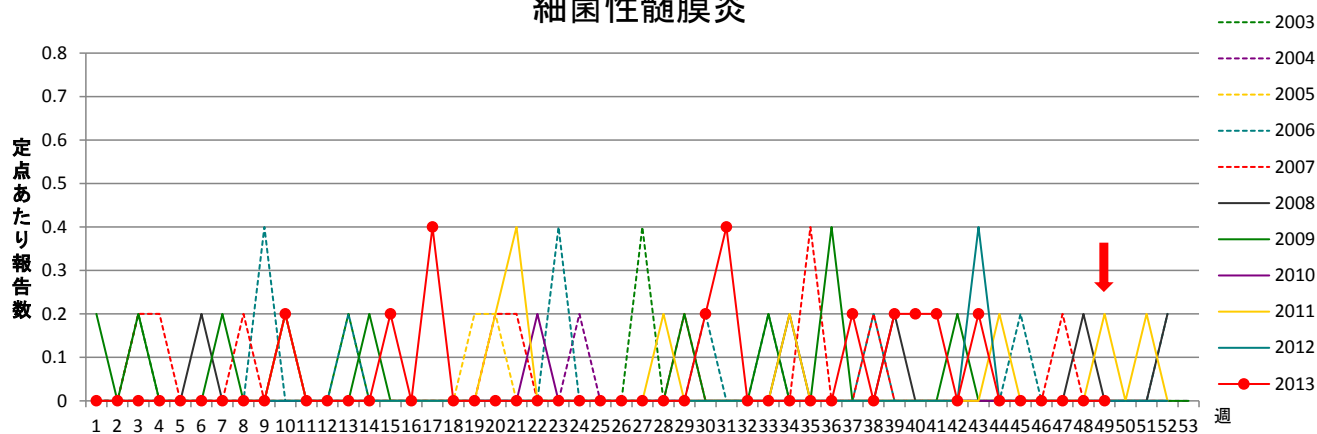
急性出血性結膜炎



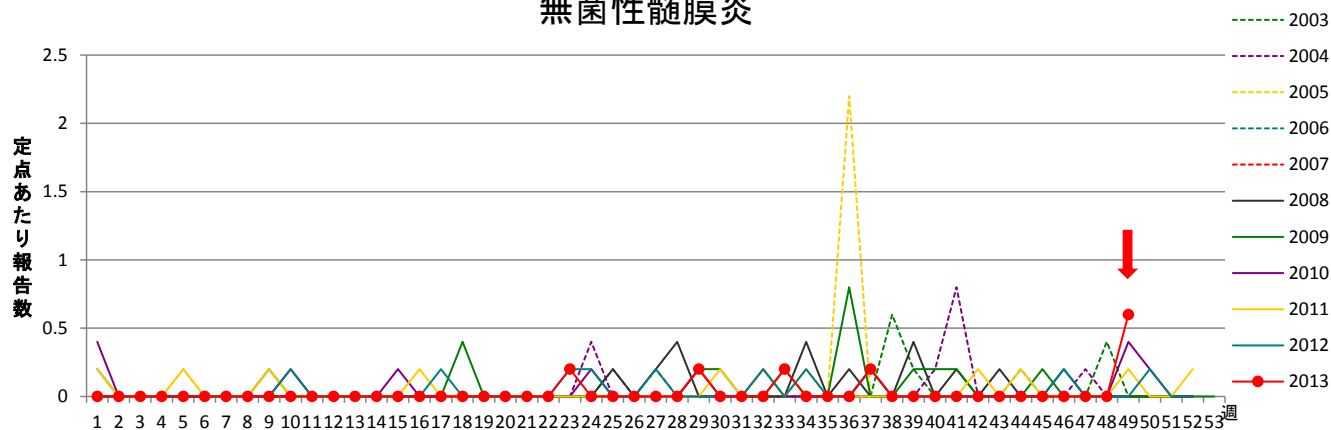
流行性角結膜炎



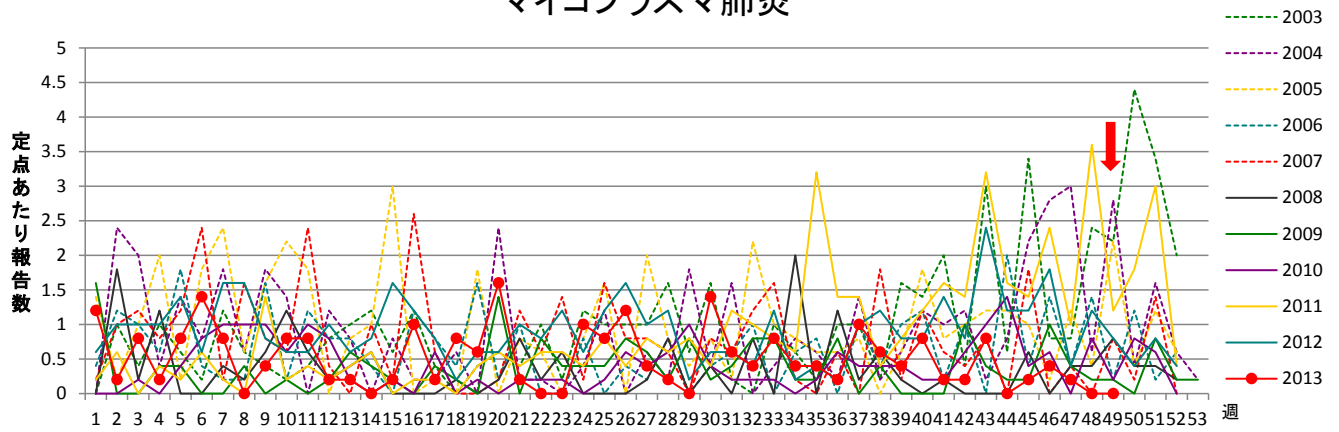
細菌性髄膜炎



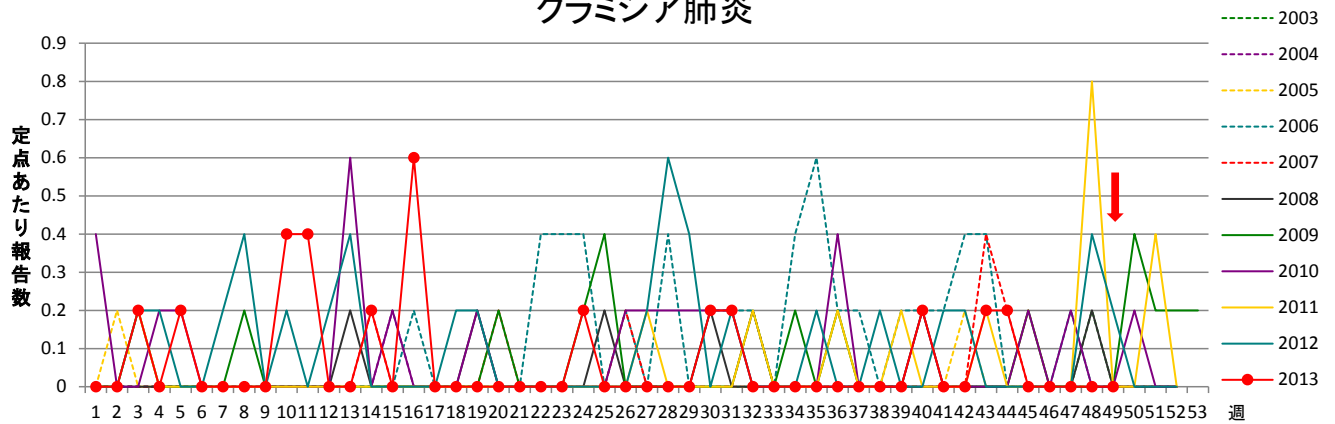
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

